



大濱信泉プロジェクト『勇気づけの教育』の推進（7）

～ 「心の土台となる自尊感情」 ～

大場学園立新栄町子ども園長 吉濱 剛

ある日のスーパーでの親子の会話です。買い物を終えてレジに向かおうとしていました。しかし、子どもは、「お菓子を買って欲しい」と言ってその場から離れません。お母さんは、その場でしゃがみ込んで目線を合わせ、「わがままを言わないなら、買い物に連れて行ってもいいと約束したよね」と確認しました。それでも子どもは「お菓子買って」の一点張りです。そこで、お母さんは、「分かりました。約束が守れないなら帰ります。」ときっぱり言うと、籠の中の商品を全部戻し、子どもを連れて帰って行きました。

「甘やかす」と「甘えさせる」は、根本的に違います。「甘えさせる」ことは、子どもの不安な心に寄り添い、心を満たしてあげることです。「甘やかす」は、子どものモノの要求に応えることで、「甘やかすは、まやかす」に過ぎません。

人間の心の成長にとって「甘え」は必要不可欠なものだといわれます。人間が生きていく上で誰かに甘えられることは絶対に必要なことで、「甘え」は相手への愛情確認の表現です。甘えが満たされ愛されていることを実感できたとき、「自分は自分でいいんだ。」という自分に対する信頼が育つことで「心の土台」が徐々に形成されていきます。

しかし、甘えることができなかつたり、甘えが満たされないと、相手に怒りが生じたり、自分は価値のない人間なんだと思ひこんだり、周囲に対する不信感となって自尊感情が低くなります。また、相手を信じることもできず、人間関係が上手くいなくて孤立しがちになり、攻撃的になったり、ひきこもったりします。あるいは、寂しさからある個人やグループに過度な依存状態になり、さまざまな問題行動に繋がっていくこともあります。

このように、自尊感情は、子どもの心に大きな影響をもたらし、生きていく上で最も重要な感情だとえいます。

「甘えることで育つ心の土台（基本的な自尊感情）」は、特に乳幼児期の親子の愛着形成が重要だといわれます。母親や家族を通して、自分の存在が無条件に受け入れられている「包み込まれ感覚」が育つと、心が安定し周りの人への信頼感が高まります。そのため、人に対して素直に優しく接することができるようになり、人の話を聞ける子どもに育ちます。また、信頼する対象を家族から幼児施設等の身近な集団へ、身近な集団から地域社会へと広げながら体験や感情を共有することで、さらに自尊感情が高まります。

自尊感情を高める手軽な方法として、「ありがとう」の言葉のシャワーを浴びせてあげることがあります。私たち大人は、子どもに一日に何回「ありがとう」と伝えているでしょうか。人は、誰かの役に立ち感謝されることで、自分は価値ある存在だと認識し、自己有用感を高め自信と勇気が育ちます。その「ありがとう」をダイレクトに伝える秘訣が、「お手伝い」になります。「あれ持ってきて」「これ一緒にやれるかな」等、小さなことでもお願いして、その度に「ありがとう」を伝える機会を増やすことです。家庭だけでなく、地域全体に「ありがとう」の言葉のシャワーを広げていきたいものです。

最後になりますが、自分を信じ、人を信頼し、やる気を支えているのが自尊感情です。自尊感情が高まると、子どもは前向きで夢と希望を持ち、目標に向けて自分を律し、生活リズムを整えて努力を惜しみません。勇気づけによる子育てのまちづくりを共に目指していきませんか。

